令和２年度　標準学力調査　指導改善リーフレット　算数・数学

● 対　象　：市内の公立小学校４年生、中学校１、２年生　　●実施期間：令和２年６月８日(月)～６月１２日(金)

※令和２年８月２８日東京書籍発行　令和２年度那覇市【標準学力⁺】分析用参考資料も合わせてご活用ください。

全体的な傾向

成果・【領域：数と計算】同分母真分数（約分なし）の加法（小４ 1 (8)）や異分母分数（約分なし）の加法（中１ 1 (4)）の分数の計算は、目標値や全国平均を上回り、よく身についている。

・【領域：数量関係】百分率の理解に基づく割引後の代金の求め方（中１ 13 (2)）は、全国平均を上回っている。

課題・解答類型から【領域：数と計算、数と式】における、分数のいくつ分（小４ 4 (1)）、分数÷分数の文章題（中１ 3 ）、小数の除法（中１ 4 ）、文字式で表された数量の意味（中２ 5 ）、【領域：数量関係】における、比（中１ 15 (1)）で数の比を簡単な整数比で表すことについて、正答より誤答の反応率が高いといった誤った理解が見られる。

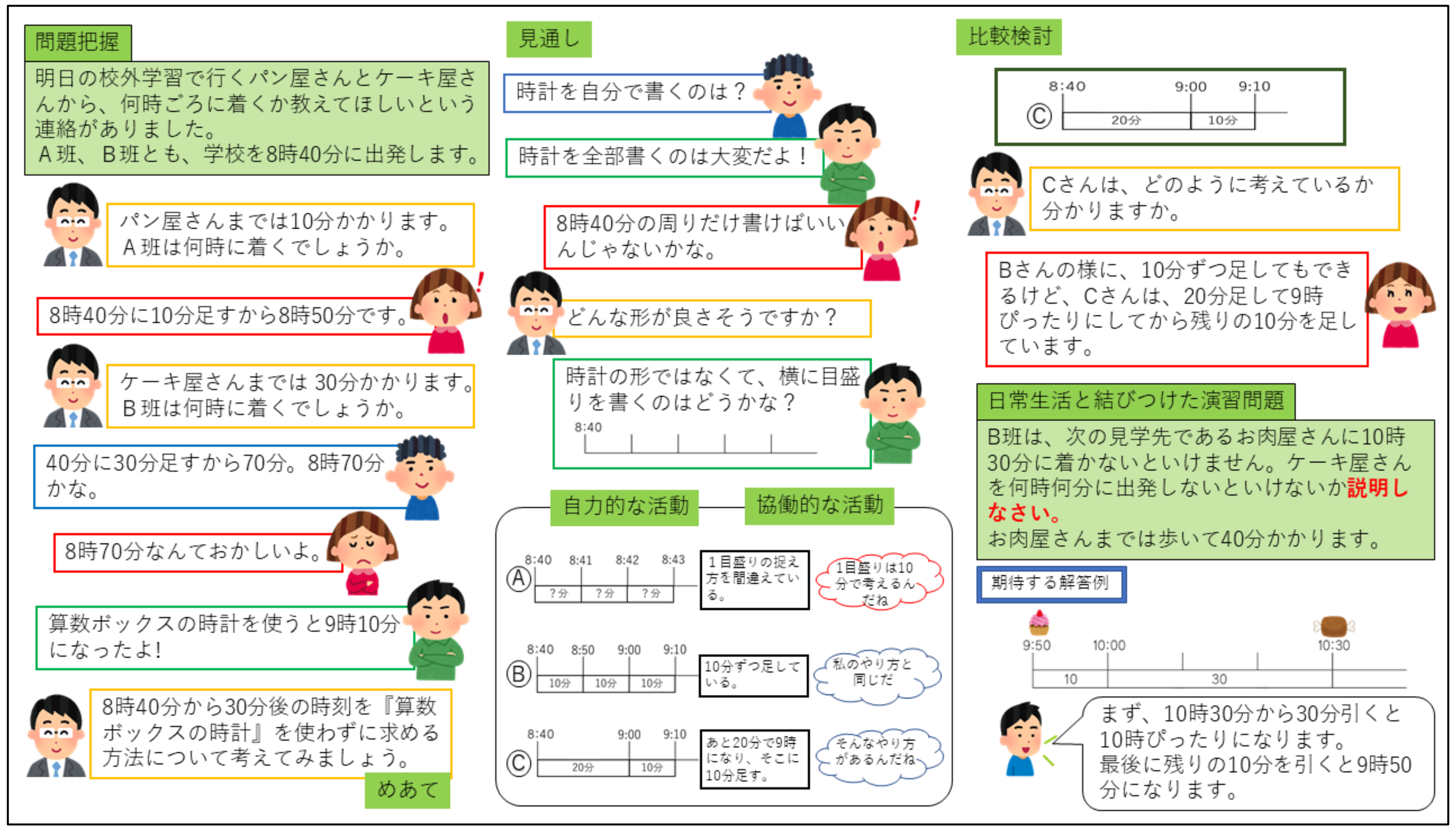
・【領域：量と測定】与えられた時間から到着時刻を求める。（小４ 15 (1)）は正答率に落ち込みが見られる。

① 課題となる問題　与えられた時間から到着時間を求める　小学校４年

分析　与えられた情報を基に、どのような計算をすればよいのか、順序よく筋道を立てて考える事ができていない。類題として『令和２年度　６・７月実施　沖縄県学力定着状況調査（学びのたしかめ）』の小学校算数第３学年大問 7 や小学校算数第４学年大問 7 においても落ち込みが見られる。

指導にあたって・指導例【啓林館　わくわく算数３上　P52】※学習過程は問いが生まれるサポートガイド参照

時間の量を数直線で可視化することを通して、『時計の模型』を使わなくても時刻が求められるようにする。また、日常生活で起こりうる場面でもあるため、集合時間に間に合うためにはどのようにしたらよいか考えさせるなど、経験を想起させつつ検討させる場を設定する。『10 分ずつ順に足す方法』や『〇時ちょうどにしてから残りを足す方法』等、解決方法を比較検討することも考えられる。

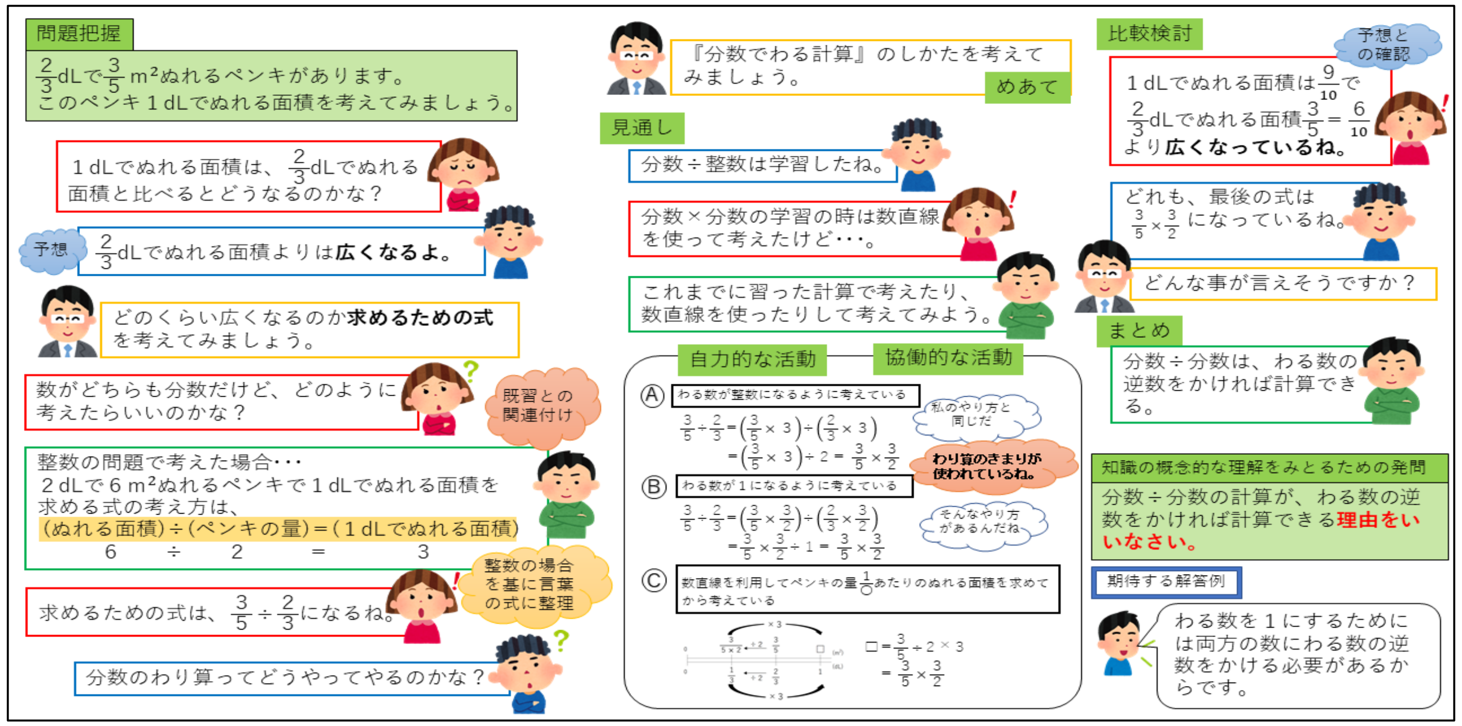


② 課題となる問題　分数÷分数　中学校１年

分析　除数と被除数を取り違え等があり、問題文の意味を理解せず、問題文に出てきた順番で割ってしまうことが考える。

指導にあたって・指導例【啓林館　わくわく算数６　P59】※学習過程は問いが生まれるサポートガイド参照

既習の整数÷整数の計算方法と関連付けて考えようとしたり、言葉の式を基に整理したり、図（数直線）を用いて考えようとしたり、わり算のきまりを使おうとしたりする態度を育むこととともに、単にわる数を逆数にしてかければよいといった計算方法のみを教えるのではなく、知識の概念的な理解をみとるための発問を行うことも大切です。また、小学校の計算領域の最終単元であり、四則計算のまとめを図る単元でもあるため、授業と連動した宿題を与えて継続的に反復学習に取り組ませることも必要です。



③ 課題となる問題　文字式で表された数量の意味　中学校２年

分析　与えられた式から、碁石の囲み方を考えたり説明したりするなど、事象を多面的に見ることが不足している。

指導にあたって・指導例【啓林館　未来へひろがる数学１　P76】全国学力・学習状況調査　授業アイディア例 H25

事象を数学的に表現したり、数学的な結果を事象に即して解釈したりするなど、活動１～３をバランスよく取り入れ、事象を多面的に見ることができるような場を設定する。また、正方形や正五角形などに変え、発展的に考察する場面を設定することも考えられる。